

安曇川高等学校

不撓不屈 (ふとうふくつ)

安曇川高等学校の部旗には「不撓不屈」という文字が書かれています。

「撓」という字は「たわむ まがる くじける かき乱す」という意味があります。また「屈」も「かがむ まがる ちぢむ くじける」という意味があり「撓」と「屈」は同じような意味の文字です。したがって、「不撓不屈」は「くじけることのない」という意味の文字を重ね、強調しているのです。この言葉は大変古く、後漢時代の班固という歴史家が紀元1世紀に著した『漢書』に登場しています。大修館の『四字熟語辞典』には「最後まであきらめない人物を誉めるのに用いられることが多い」と記されています。

「不撓不屈」という言葉が広く知られるようになったのは、平成の大横綱と言われた貴乃花が大関昇進の際に「不撓不屈の精神で相撲道に精進いたします」と口上を述べた時からでした。このころ相撲界では大関や横綱への昇進の時に、少し難解な四字熟語を使った口上を述べるのが流行ったのですが、貴乃花は、口上の言葉に恥じない相撲ぶり、ファンを魅了したものでした。

安曇川高等学校は、かつて北川三郎先生が剣道部を率いておられ、昭和54(1979)年本県を会場に行われた全国高校総体の剣道女子団体の部で高島高等学校と並んで本県代表として出場するなど、県下の各高校剣道部の目標となる強豪チームでした。

その当時安曇川高等学校のライバルであった高島高等学校の監督をしておられた仮屋達彦先生が、平成22年に安曇川高等学校に赴任されたとき、部員や保護者と相談され、現在の部旗を作られました。仮屋先生は、永年、本県高校剣道部の指導をしてこられ、どんなことにもくじけない強豪チームや優秀選手を数多く育ててこられました。「不撓不屈」という言葉は先生の生き方そのものであるように思います。輝かしい伝統をもつ安曇川高等学校の剣道部が、この部旗のもとさらに輝きを増すべく日夜稽古に励んでいます。